

性器クラミジア感染症について

【微生物科】

1 はじめに

クラミジア・トラコマティスは、性感染症の主要な病原体のひとつであり患者数の増加や低年齢化が問題となっている。

本県におけるクラミジア・トラコマティス感染症（以下「性器クラミジア感染症」という。）の患者数の推移と抗体保有状況調査結果の概要について報告する。

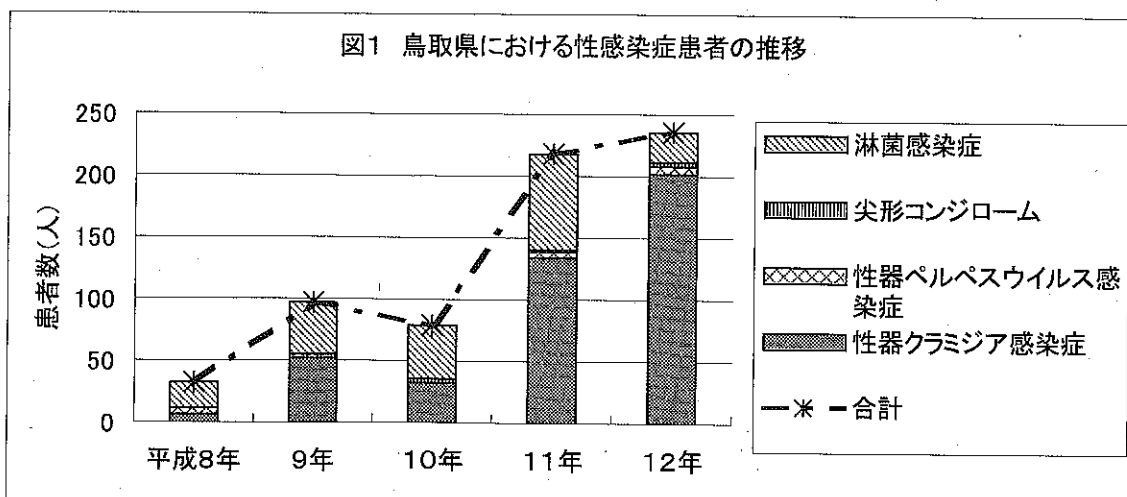
2 調査研究の方法

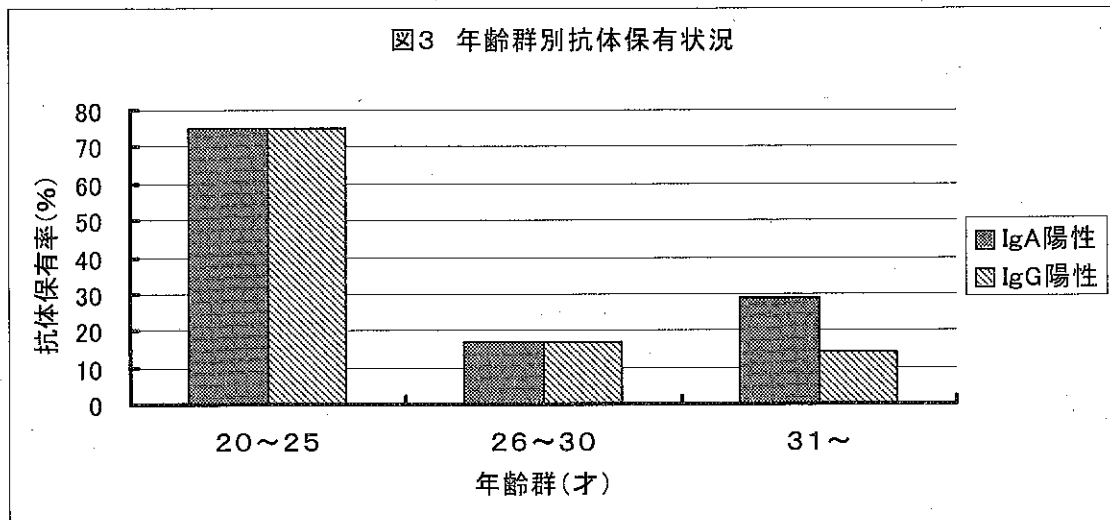
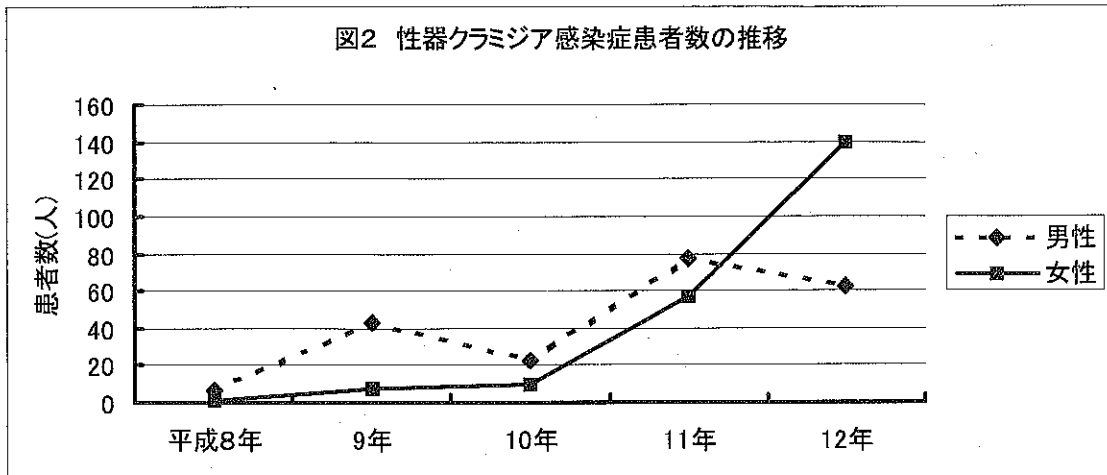
- (1) 県内の関係医療機関や文献等より情報収集を行った。
- (2) 鳥取県感染症発生動向調査事業により患者数を把握した。
- (3) 抗体保有状況を調査し感染の実態を把握した。

- ① 検査材料：県東部の産婦人科医院から分与された受診者23名の血清
- ② 検査方法：ELISA法測定キット「ヒタザイムクラミジアAb」（日立化成）を用いて血清中のIgA及びIgG抗体を測定した。

3 調査結果の概要

- (1) 鳥取県における性感染症患者数の推移について図1に示す。平成10年に減少がみられるが毎年増加傾向にある。
- (2) 性器クラミジア感染症患者数の推移について図2に示す。女性の患者数の増加が著しく、平成12年は男性の2倍以上であった。
- (3) 抗体保有状況について図3に示す。分与された血清は20～40歳までの23件であった。20～25歳の抗体保有率が75%と高い率を示した。





4 ま と め

- (1) 性器クラミジア感染症は、本県において男性よりも女性に浸淫していることが分かり、今後も患者数の増加が予想される。
- (2) 血清分与の協力を得た産婦人科によると、不妊症等の受診者のクラミジア陽性率は高く、また10代で症状を伴う受診者からはほとんどの場合クラミジアが検出されている。
- (3) 本感染症は、一般に臨床症状がないか或いは軽微であるため感染者が無自覚のまま性交渉を行うことで蔓延する可能性があり、特に若年層の間に広がっていくものと考える。
- (4) 今後は、本県における性器クラミジア感染症

の浸淫状況を把握するため年齢毎の抗体保有状況について調査を実施する予定である。